



太陽が出ているのにどうして雨が降るの、天気雨はどうして降るの

天気雨が降る理由は三つある

太陽が出ているのに、雨が降っていることがあります。これを天気雨といいますが、天気雨が降る理由は、大きく分けて三つあります。

一つ目の理由は、雨が落ちてくるまでの間に、雲が消えてしまうからです。雲の中でできた雨が落ちるとき、雨が地面に落ちてくるまでには、長い時間がかかります。雨が落ちるまでの間に、雲が、風に流されたり消えてしまったりしたために、雨が地上に落ちるころには、太陽が出ています。

二つ目は、雨が風で飛ばされてしまったときです。これは、はなれた空で降っている雨が、強い風に流されて、ちょうど、太陽が出ている地上に落ちてくるときです。

三つ目は、小さな雲が雨を降らしているときです。空の一部に雨を降らす雲があって、そこから雨が降ってくるときです。雲が小さいので、太陽は雲にかくれることがなく、出ています。

雨つぶが落ちる速さ

雨つぶの大きさは、夕立のときに降るような激しい雨で、直径が5～6ミリメートル、ふつうは、1.5～2ミリメートルぐらいです。

雨の落ちる速さは、雨つぶの大きさによってちがいます。直径2ミリメートルの雨つぶは、1秒間に約7メートル、1キロメートル落ちるのに約2.4分かかります。

(監修・村山 貢司)

